

自己評価

目指す児童像	具現化の視点	努力目標	具体的実践事項	評価				点数	
				大変よい	まあまあ	あまり	よくない		
命を大切に	実	命を大切に							
		1 道徳教育の充実	道徳の時間の工夫（教材開発活用，GT，日常生活での実践化）	0	10	4	0	2.7	
			心のノートの活用（道徳の時間，学活，家庭との連携）	1	10	2	1	2.8	
			自然体験・社会体験・奉仕体験活動等の体験活動の重視	1	12	2	0	2.9	
		心のノートを家庭に持って帰る期間を設けて、家庭との連携を図ることが少してきた。心のノートの活用ができていなかった。							
		2 人・自然・社会とのふれ合い活動の重視	人材、自然環境、施設、行事等の地域のよさを生かした充実感の味わえる学習展開の工夫	3	9	1	1	3.0	
			JRC活動を中心とした学年・児童会活動等におけるふれ合い活動の推進	0	10	5	0	2.7	
		JRCの活動は、児童会を中心に行われているが、学級レベルでの活動は行われているのだろうか？また、JRCの意義など基本的な意識や理解はなされているのか疑問に思う。クラスのVS活動決めたが、継続した取り組みが十分にできなかった。地域人材を活用し米づくりを体験した。徳澄さんへの負担等を考えると米づくり自体を学年PTA活動とした方がよい。							
		3 人に優しい人権教育の推進	心サポート委員会、児童理解朝会の充実（PDCAのサイクル化）	1	12	3	0	2.9	
			児童と向き合う時間や教育相談（含：保護者）の充実	2	9	4	1	2.8	
			人権に対する基本的認識の高揚を図る研修内容の充実（事例研究や現地研修の実施）	3	11	1	1	3.0	
			ルールを守る子どもの育成	1	9	5	1	2.6	
児童理解朝会は、報告会から実践的な取組を考える会になり実践的となった。ルールを守る子どもの育成については、意識化をどう図るかが問題である。休み時間には教師の近くにいる児童だけでなく少し離れた児童にも声をかけるとともに、児童がどのような過ごし方をしているか観察し実態把握につとめることができた。児童と向き合う時間の確保が大変難しい。									
4 特別支援教育の充実	特別支援学級や特に配慮を必要とする児童の実態把握と支援	3	11	2	0	3.1			
	特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の整備	2	11	3	0	2.9			
今学期は特に支援をお願いすることが少なかったが、必要に応じて対応していただけるのでありがたい。奥田先生を中心に児童の実態を把握してどのように支援していくかシステム化が図れてよいと思う。白石先生も個別の支援をしていただき子ども達が落ち着いてきたように思う。実態把握、支援内容について吟味する時間の確保が難しいと感じた。									
5 生活目標の具現化	月別生活目標への取組と評価	0	12	4	0	2.8			
	基本的生活習慣の確立（マナーアップ大作戦の充実）	2	10	4	0	2.9			
月別生活目標やマナーアップ大作戦の取組について校内放送等で随時、周知する機会があった方ではないか。教師が意識することで子どもたちの意識にも変化が見られたきたように思う。廊下の歩き方は1学期から徹底して指導してきたが、落ち着いて静かに歩くことが多くなってきた。学校での過ごし方については二極化しているような気がする。全く意識しないでさわいでいる児童と指導の度にしっかりと受け止め行動に移している児童と両極端である。立ち止まりあいさつなど高学年の中では少しずつ広がりをみせた。									
6 環境教育の充実	整理整頓された学校づくり（清掃指導の徹底・成長の跡が見える動きのある掲示・積極的な行動を促す視覚的掲示の工夫）	2	9	4	0	2.9			
	言語環境の整備（教師と児童、児童相互の話し言葉の適正化）	2	7	7	0	2.7			
児童の発表の言葉や普段の言葉遣いがとても丁寧になってきたように思う。教師の言葉づかいは、自分がきちんとした言葉づかいをするように気をつけていきます。久保田先生に環境面は大変お世話になった2学期でした。「くん、さん」だ随分定着してきた。自分も意識して使った。									
7 授業の質的向上と授業時数の十分な確保	思考力、判断力、表現力を高める発問や学習活動の工夫	1	11	5	0	2.8			
	話の聞き方や発表の仕方など学び方の育成	1	11	5	0	2.8			
	年間指導計画の見直しと毎時間の確実な指導の推進	1	14	2	0	2.9			
発表の仕方の掲示やマニュアルを活用して、その場その場で指導をしてきた。型を基本に自分の思いや考えを発言できる子が増えてきた。話の聞き方や発表の仕方は教師の意識、指導力が大切だと思う。それぞれの指導にばらつきがあるのではないだろうか。考える時間の確保は行ってきたが、十分高めることができたかは疑問である。									
8 少人数指導を生かしたきめ細かな指導の重視	少人数授業や習熟度別指導の拡充と授業記録・反省	1	12	4	0	2.8			
	個に応じた指導の徹底（鳥が丘タイムの有効な活用と個別支援の実施）	0	13	3	1	2.7			

も に 健 康 な す 子 ど も る 思 い や 子	確 かな 学 力 の 充 実	算数の学習内容に応じて習熟度別指導を行ったが、児童の力に応じた手だてを効果的にうてた。 鳥が丘タイムは個別の時間と言うより、一斉に行う習熟の時間になってしまった。			
		9 基礎・基本の確実な定着	学習に対する苦手意識を持った児童の解消(鳥が丘タイムの工夫)	0 9 6 2	2.4
			家庭学習の習慣化	1 8 8 0	2.6
		家庭学習の習慣化を図るためには、家庭との連携が必要であると思う。その点については十分にできていない。 家庭学習については、家庭との協力をもっと密にする必要があると思う。 家庭学習が十分とは言えず、二極化している。			
		10 熊本型授業の積極的な展開	本時のめあて、展開、まとめを明確にした毎時間の授業の実践	2 12 2 0	3.0
			指導と評価を一体化した授業の実践	1 11 4 0	2.8
		本時のめあては毎時間示し、自力解決、共同解決の場を設定し、まとめという流れを行ってきた。児童も学習の流れに合わせて見通しを持って学習に取り組むことができた。 次の指導に生かす評価方法の工夫を行っていきたい。 まだまだ自己研鑽する必要有り。 毎時間の形成的評価が十分ではなかった。			
		11 国際理解教育と情報教育の展開	国際文化の理解：A L T と連携した楽しい英語活動の工夫	2 11 2 0	3.0
			情報化に対応するI T 機器の授業での有効な活用	2 10 4 0	2.9
		I C T の活用は、多くの先生方が活用されてスキルアップにつながっていると実感しています。それぞれの機器の使い方講座などを開けばもっと有効な活用がはかれたのではないかと考えます。 デジタルテレビを中心にI C T 機器の積極的活用ができた。児童の興味関心を高めたり、理解を深めたりすることができた。 地デジの活用もあり今学期は有効に活用できた。			
12 読書活動の推進	朝の一斉読書の充実と読み聞かせボランティアとの連携	5 9 2 0	3.2		
	P T A と連携した「おすすめ100選」の推進	0 9 6 1	2.5		
	図書館を活用した授業の展開	1 11 2 1	2.8		
読み聞かせの会の協力により読み聞かせは大変充実していると思います。 おすすめ100選の推進が十分ではなかった。					
13 健康教育の推進	養護教諭との連携を密に図った日常的な健康づくり指導の充実	0 11 3 2	2.6		
	家庭と連携した「早寝・早起き・朝ご飯」キャンペーンの推進	0 8 8 0	2.5		
早寝早起き朝ご飯の調査が運動会期間合ったがその結果の有効活用がなされるとより充実したのではないかと考えます。 運動会時期は生活習慣について家庭にもチェックをお願いしたが、その後の継続した取り組みが十分ではなかった。					
14 たくましい体力づくりの推進	体力向上を意識した体育の授業の充実	0 10 6 0	2.6		
	体力テストの分析と活用(筋肉もりもり週間・大会の実践)	0 11 4 0	2.7		
体育の授業での準備運動はしっかり行わせ、柔軟性を高めるように取り組んできた。					
15 安全教育の推進	安全点検の徹底と早期対応	1 14 1 0	3.0		
	交通安全指導の徹底(集団登下校指導・交通教室・廊下歩行等)	3 10 3 0	3.0		
安全に関する意識化をもっと子ども達に図る必要があると思う。 交通安全については、帰りの会と集団下校の際に毎日指導を行ってきた。大きな事故がなくよかった。					
16 食育の推進	各教科と食に関する体験活動や給食と関連した指導の充実	1 11 4 0	2.8		

の あ じ る 子 ど も も	17 地域・保護者への情報発信・収集の充実	校長室だより、学年学級通信による学校・児童の情報発信	2 12 2 0	3.0	
		学校評価の充実（積極的活用、公表）	0 11 4 1	2.6	
	18 地域の人材の活用・地域の自然文化遺産の教材化	学校評議員制度の活用、老人会、子ども王国保安官制度等の活用	1 10 3 2	2.6	
		地域、自然文化遺産の活用（青井神社、大村古墳群、球磨川等）	2 9 4 1	2.8	
	学校近くの自然の変化について学習を行うことができた。				
	19 自由参観日・鳥が丘デーの設定	毎月1回自由参観日の設定、内容の工夫	0 10 5 1	2.6	
	20 幼・保、中、高等との連携	幼保小連絡会の実施（学期に1回）	1 7 6 2	2.4	
		球工高との交流学习、中学校説明会・授業参観、二中校区サポートネットワークの実施	1 7 7 1	2.5	
	21 学童保育との連携強化	学童保育との情報交換、訪問	0 5 9 1	2.3	
	学童保育に訪問する機会も特になく、情報交換もできていません。				
平成20年度達成目標		1 学期(3.0) 2 学期(3.1) 3 学期(3.2)	平成20年度実績 2 学期達成率	2.8	

その他(反省・課題・良かったこと等)

二学期は青井神社見学や青井神社の絵をかくなど、地域の歴史的遺産を活用することができたように思う。

2 学期の評価が 2 . 5 以下だった項目（ 6 項目）

基礎・基本の確実な定着（学習に対する苦手意識を持った児童の解消：鳥ヶ丘タイムの工夫） 2 . 4

読書活動の推進（PTAと連携した「おすすめ100選」の推進） 2 . 5

健康教育の推進（家庭と連携した「早寝・早起き・朝ご飯」キャンペーンの推進） 2 . 5

幼・保、中、高等との連携（幼保小連絡会の実施：学期に1回） 2 . 4

幼・保、中、高等との連携（球工生との交流学习、中学校説明会・授業参観、二中校区サポートネットワークの実施） 2 . 5

学童保育との連携強化（学童保育との情報交換、訪問） 2 . 3

〔今後の重点取組事項について〕

豊かな心の育成

マナーアップ大作戦の取組は充実してきたが、成果として現れるように家庭との連携を充実させていく。

確かな学力の充実

鳥が丘タイム等において、多くの職員で関わっていき、分かるまで指導していく。

家庭学習の充実については、保護者への啓発に力を入れ協力体制を強化する。また、一人一人に応じた取組可能な学習課題を設定する。

たくましい心身の育成

「おすすめ100選」まとめの学期として児童、保護者に啓発していく。

実態調査結果をもとに個別に「早寝・早起き・朝ご飯」について指導していく。

集団登校については、班長の自覚を高めるとともに配慮の必要な児童について個別に指導していく。

地域とともに歩む学校づくりの推進

幼稚園・保育園と連携して、来年度入学児童の情報収集に努める。また、体験入学を充実させる。

中学校職員との交流授業や連絡会を通して、6年生の中学進学をサポートしていく。

学童保育との情報交換を密にしていく。